

薬用作物の国内栽培においては一般農作物と比べ栽培面積が極めて小規模で全国に点在していることから、雑草防除の実態や生産者の要望が把握されにくい。このような状況を解決するためには、薬用作物の除草剤の適用拡大を効率的・効果的に進めるためには、都道府県や地方自治体の枠組みを越え、情報共有や試験内容の調整を行うことを目的とした広域ネットワークを整備することも必要と考える。

加えて医薬品原料を目的とした薬用作物には、外国産植物を中心にこれま

で日本で栽培されたことがない植物が多く、農産物等の食品分類表に記載されないために、農薬の残留基準値が設定されていないものがある。残留基準値設定がない場合、登録農薬の適用拡大試験が実施できないため、事実上除草剤の適用拡大が行えないという事例もある。医薬品原料の農薬残留基準値は、今後、医薬品業界で検討されるべき課題であるが、農薬の適用拡大を目的とした薬用作物の‘収穫物’の農薬の残留基準値を設定する等の対応が必要と考える。

引用文献

- 日本漢方生薬製剤協会 2016. 原料生薬等調査報告書—平成 25 年度および平成 26 年度使用量—。日本漢方生薬製剤協会。
- 厚生労働省医政局経済課 2016. 薬事工業生産動態統計 平成 27 年。厚生労働省, 13.
- 菱田敦之 2012. 生薬「吉草根」の生産とその課題。道薬誌 29(4), 25-28.
- 菱田敦之 2015. カノコソウ栽培における除草剤トリフルラリンの除草効果と農薬残留性。薬用植物研究 37(2), 18-21.

田畑の草種

大反魂草・大返魂草・大判言草 (オオハンゴンソウ)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

キク科オオハンゴンソウ属の多年生草本。草丈は 50cm 程度から 3m に達するものもある。種子とともに地下茎でも繁殖する。葉の形が「反魂草」に似るため名づけられたが花の形は大きく異なり、花径 5～7cm の黄色い頭花をつける。中央部の筒状花は黄緑色で団子状に盛り上がり、舌状花は花弁がやや垂れ、1 輪だけで見ると何となくだらしなく感じるのは筆者だけだろうか。

北海道の富良野を舞台にした倉本聰脚本の「北の国から」というテレビドラマがあった。1981 年に始まり 2002 年まで断続的に続いた。その中のドラマスペシャル「'98 時代」。かつて想いを寄せていた蛍が不倫相手の子を身ごもり札幌で暮らしているのを知った正吉は、兄とも慕う草太から蛍との結婚を勧められる。正吉は蛍にプロポーズするが拒否されてしまう。水商売をする母に相談したところ、そのときに流れていた「百万本のバラ」になぞらえて花を贈ることを薦められるが、百万本

のバラは 4 億円も 5 億円も。

場面が切り替わって、蛍の兄の純が富良野に車を走らせている。車窓に広がる黄一色の花畑。純は、その花畑の中で花を刈っている正吉を見つけた。「正吉！ 何やってんだお前」「いいんだ。俺の趣味だ。放っといてくれ」。正吉は刈りながら「4,231, 4,232, 4,233・・・」。

一方、蛍のアパート。蛍が戸を開けると、届けられた黄色の花、花、花……。花瓶といわずバケツといわず、水を入れられるものすべてに生けられた真っ黄色の花。

この花が「オオハンゴンソウ」であった。

北海道富良野には、ずいぶんと前から広がっていたようである。今や「特定外来生物」に指定されるオオハンゴンソウである。今なら、正吉も蛍もそのままでは済まないかもしれない。